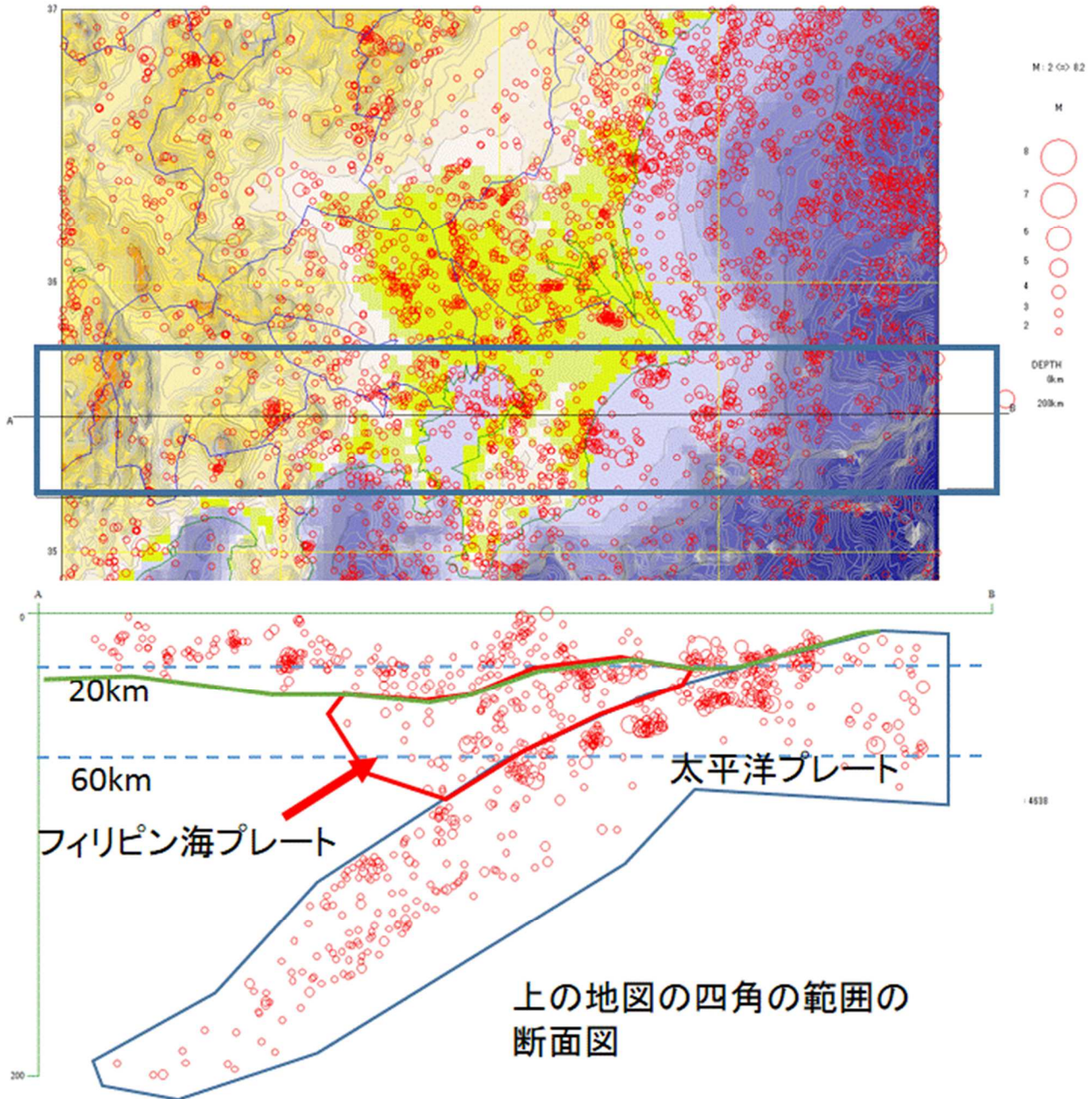


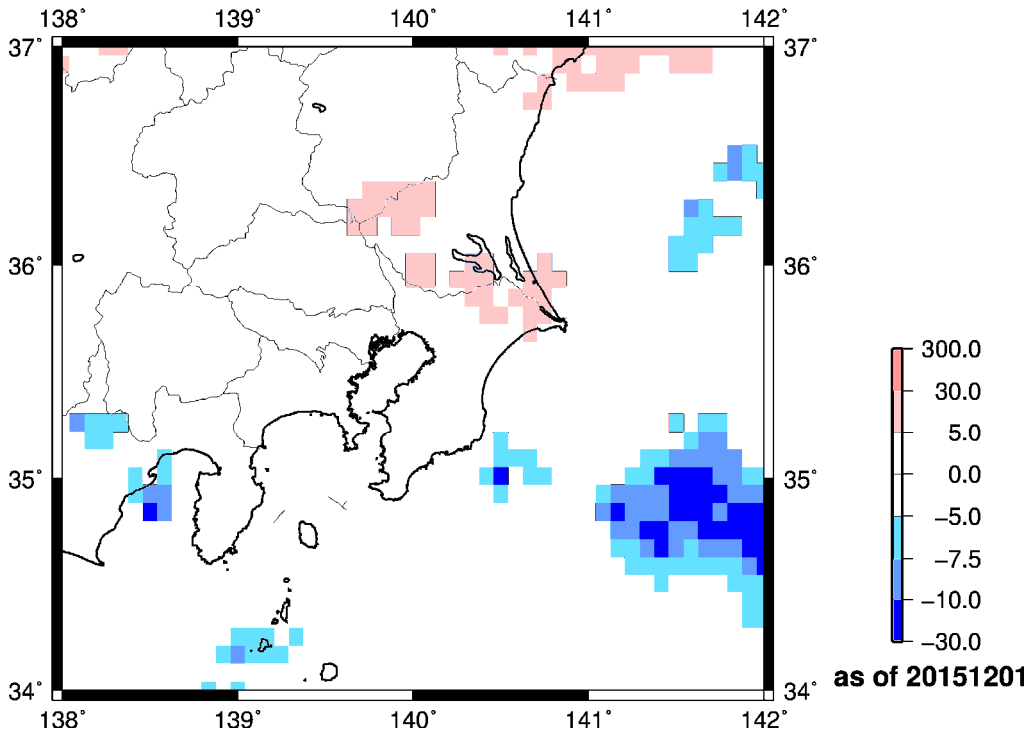
関東地方（首都圏）の地震活動について

この所、九州西方などでは比較的規模の大きな地震活動がありましたが、関東地方は平穏な状態が続いています。関東地方は世界でも稀な複雑な地下構造（一番上に北米プレート、その下にフィリピン海プレート、さらにその下に太平洋プレートが存在）をしています。そのため、地震活動を評価するのが極めて困難な地域となっています。そのような場所に世界でも有数の大都市である東京が位置しています。

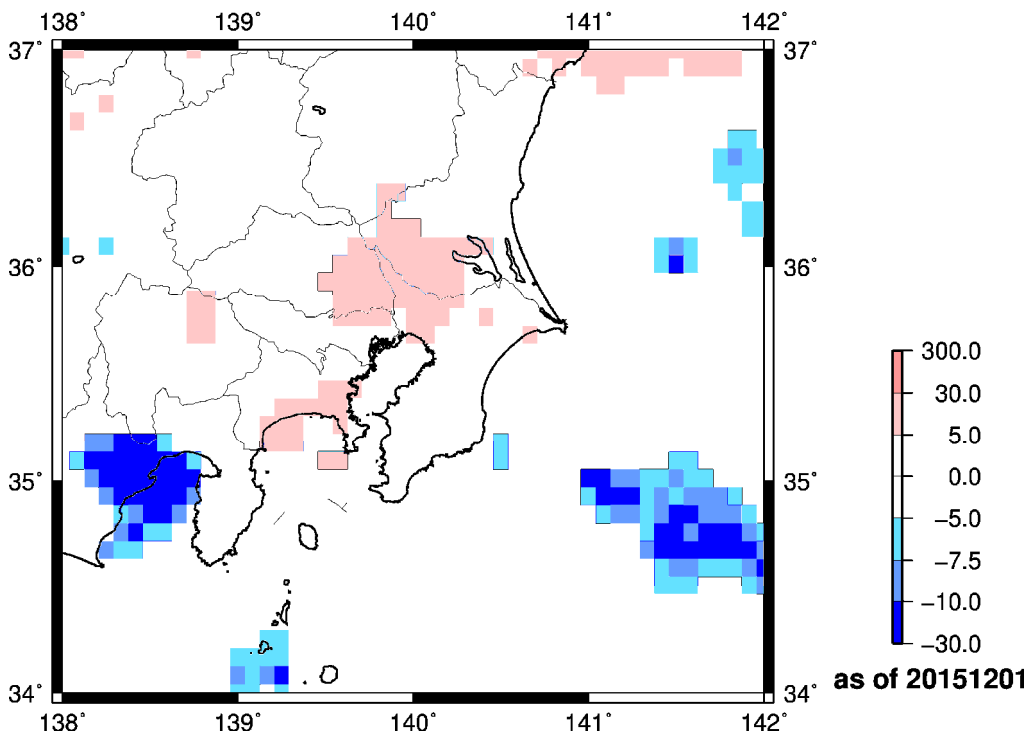


よく東京が揺れるのは、一番深いところにある太平洋プレートに関する地震です（深さ60－80 kmで発生）。それに対して現在発生が危惧されていますいわゆる『首都圏直下型地震』はフィリピン海プレートの上面の深さ20 kmほどの深さで発生すると考えられています。深さが単純に浅い（＝地面に近い）事と、想定される規模が大きい（マグニチュード7以上）という事から、甚大な被害が予想さ

れているのです。今回の解析では、深さ 20 km および 60 km という 2 つの深さでの地下天気図です。気象にたとえると地上天気図と高層天気図に相当すると考えて頂いて結構です。



深さ 20 km における地下天気図。房総半島沖がおかしいですね。



深さ 60 km における地下天気図。駿河湾で大きく出ている青い静穏化領域はもともと地震が発生していない場所なので、心配ありません。やはり房総半島沖は十分注意すべき地域です。

12月1日時点では、首都圏直下には異常は出ておりません。